

# たけべ米 栽培ごよみ

## — 特別栽培米 雄町（レンゲ） —

たけべ特別栽培農産物研究会

### ◎特別栽培とは・・・◎

次の①と②の両方の条件を満たす栽培

- ①化学合成農薬の使用回数が慣行レベルの50%以下
- ②化学肥料の窒素成分量が慣行レベルの50%以下

	化学合成農薬 (延べ成分使用回数)	化学肥料 (窒素成分Kg/10a)
慣行レベル (雄町)	18	6
特別栽培米 (雄町)	9以下	3以下

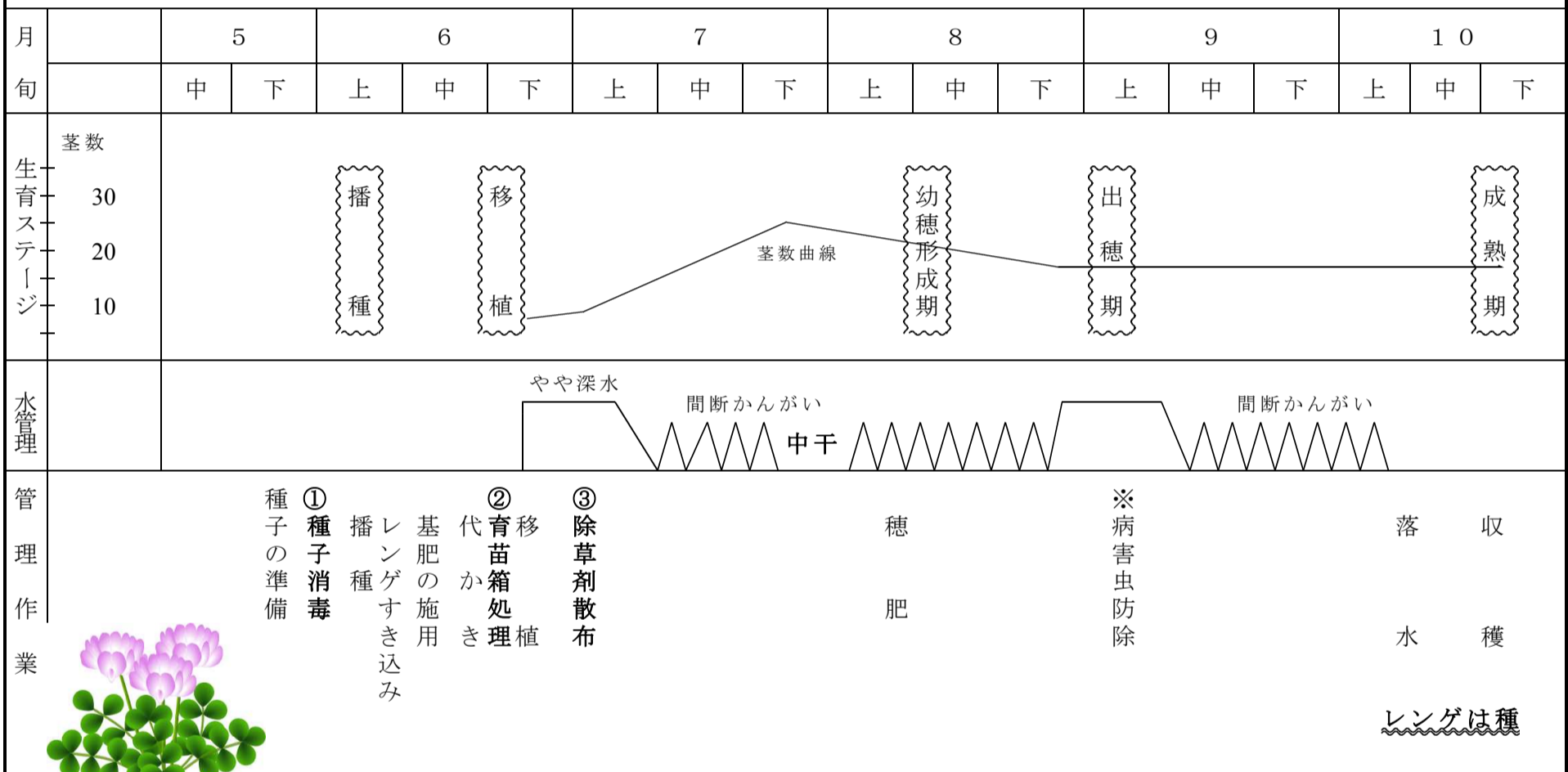
### ◎栽培のポイント◎

- ・日当たりが良く、排水良好な水田で栽培する。
- ・種子更新は、必ず行う。
- ・腰が低く、茎の太い健苗を育成する。
- ・ガスの発生に注意し、間断かんがいに努める。
- ・倒伏を防ぐため、中干しをしっかりと行なう。
- ・穂揃いを良くし、千粒重を高め、心白の発生を高める。
- ・適期収穫、適正乾燥により胴割れ米を防止する。

- ・特別栽培米生産ほ場には看板を立てましょう！
- ・栽培管理日誌は確実に記入しましょう！！

【雄町特性表（農業試験場における成績）】

早晩性	出穂期 月/日	成熟期 月/日	稈長 cm	草型	いもち 葉 穂	白葉枯病	紋枯病	耐倒伏性	品質
晩	9/4	10/25	118	穂重	弱	中	中	弱	上



【例】

用途	薬剤名	希釈倍数及び使用量	使用時期	使用方法	対象病害虫	成分数	使用回数
①種子消毒	(温湯消毒)	—	浸種前	—	いもち病、ばか苗病、シガレセンチュウ等	0	—
②育苗処理	デジタルパワー箱粒剤	50g/箱	移植3日前～移植当日	育苗箱中の苗の上から均一に散布	いもち病、ウンカ類、フタバコヤガイネズミゾウムシ等	3	1
③除草剤	エーワン1キロ粒剤	1kg/10a	移植後5日～13葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布	水田1年生雑草、ウリカワ、ホタルイ等	2	1
※殺虫剤	スタークル粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	散布	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、カムシ類等	1	1
※病害虫や雑草の発生状況に応じて薬剤を選択し、使用成分を9成分以下にすること。 追加防除・薬剤変更は、普及センター等へ相談ください。						6	

【例】 (kg/10a)

		N	P	K
基肥	レンゲ	2,000		
	菜種粕ペレット	30	1.6	0.6
	有機PK2号	30	0.3	3.0
穂肥	有機653	30	1.8	1.1
	計		3.7	5.3

※化学肥料使用量(窒素成分) 0kg

**【施肥のポイント】**

- レンゲの生育量に応じて、すき込み時期を考慮する。
- レンゲのすき込み量で、基肥(菜種粕)を加減する。
- 1種の粗数が多くなると、品質(心白)が低下するので、施肥過剰とならないようにする。
- 追肥は、地力や生育状況、葉色に応じて、時期と量を加減する。  
穂肥は、出穂25日前に有機653 30kg/10aを施用する。

# たけべ米 栽培ごよみ

## — 特別栽培米 雄町（堆肥） —

たけべ特別栽培農産物研究会

### ◎特別栽培とは・・・◎

次の①と②の両方の条件を満たす栽培

- ① 化学合成農薬の使用回数が慣行レベルの50%以下
- ② 化学肥料の窒素成分量が慣行レベルの50%以下

	化学合成農薬 (延べ成分使用回数)	化学肥料 (窒素成分Kg/10a)
慣行レベル (雄町)	18	6
特別栽培米 (雄町)	9以下	3以下

### ◎栽培のポイント◎

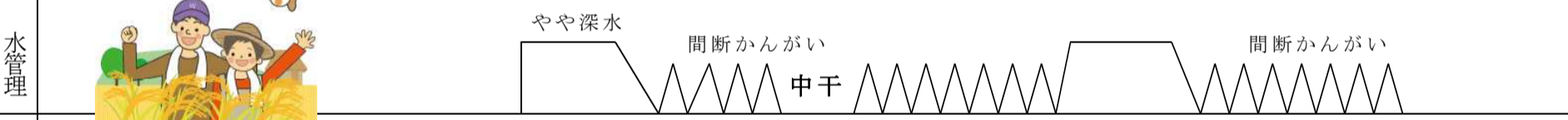
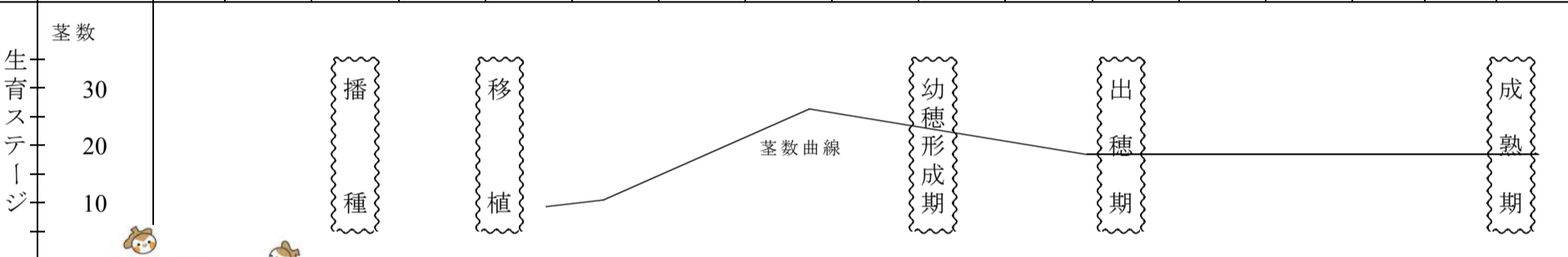
- ・日当たりが良く、排水良好な水田で栽培する。
- ・種子更新は、必ず行う。
- ・腰が低く、茎の太い健苗を育成する。
- ・ガスの発生に注意し、間断かんがいに努める。
- ・倒伏を防ぐため、中干しをしっかりと行なう。
- ・穂揃いを良くし、千粒重を高め、心白の発生を高める。
- ・適期収穫、適正乾燥により胴割れ米を防止する。

- ・特別栽培米生産ほ場には看板を立てましょう！
- ・栽培管理日誌は確実に記入しましょう！！

【雄町特性表（農業試験場における成績）】

早晩性	出穂期 月/日	成熟期 月/日	稈長 cm	草型	いもち		白葉枯病	紋枯病	耐倒伏性	品質
					葉	穂				
晩	9/4	10/25	118	穂重	弱	中	中	弱	上	

月	5		6		7			8			9			10		
	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中



管理作業	① 種子消毒	② 育苗箱処理	③ 除草剤散布	穂肥	※病害虫防除	落水	収穫
種子準備	種子消毒	基肥の施用	代かき	育箱処理	除	散	布
播種	種	種	種	種	種	種	種
移植	移	移	移	移	移	移	移
中干	中	中	中	中	中	中	中
出穂	出	出	出	出	出	出	出
成熟	成	成	成	成	成	成	成

【例】

用途	薬剤名	希釈倍数及び使用量	使用時期	使用方法	対象病害虫	成分数	使用回数
① 種子消毒	(温湯消毒)	—	浸種前	—	いもち病、ばか苗病、シカレセンチュウ等	0	—
② 育苗箱処理	デジタルパウアー箱粒剤	50g/箱	移植3日前～移植当日	育苗箱中の苗の上から均一に散布	いもち病、ウンカ類、フタビコヤガ、イネミスジウムシ等	3	1
③ 除草剤	エーワン1キロ粒剤	1kg/10a	移植後5日～ 1/3葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布	水田1年生雑草、ウリカワ、ホトイ等	2	1
※殺虫剤	スタークル粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	散布	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、コメイチュウ、カメムシ類等	1	1
※病害虫や雑草の発生状況に応じて薬剤を選択し、使用成分を9成分以下にすること。 追加防除・薬剤変更は、普及センター等へ相談ください。						6	

【例】 (kg/10a)

		N	P	K
基肥	堆肥	1,000		
	菜種粕ペレット	30	1.6	0.6
	有機PK2号	30	0.3	3.0
穂肥	有機653	30	1.8	1.7
	計	3.7	5.3	4.4

※化学肥料使用量(窒素成分) 0kg

【施肥のポイント】

- 1 1種の粗数が多くなると、品質(心白)が低下するので、施肥過剰とならないようにする。
- 2 追肥は、地力や生育状況、葉色に応じて、時期と量を加減する。穂肥は、出穂25日前に有機653 30kg/10aを施用する。